

Y19a **長野県における星空環境保護活動 ～光害防止に係る県条例改正に向けて～**

衣笠健三 (国立天文台野辺山), 百瀬雅彦, 宮地美由紀 (塩尻星の会), 大西浩次 (国立長野高専), 青木勉 (東大木曾観測所), 陶山徹 (長野市立博物館), ほか長野県星空継続観察ワーキンググループ

「長野県は宇宙県」のワーキンググループ (WG) の一つである長野県星空継続観察 WG では、2018 年の環境省による星空継続観察の再開に合わせて、県内各地での夜空の暗さ測定に積極的に参加し、再開から 6 期連続で全国一の測定数を達成するなどの活発な活動を展開している。そうしたなかで、2020 年 12 月 4 日より 2021 年 2 月 28 日まで塩尻市内のホテルより回転サーチライトが点灯された。松本盆地一帯で広くライトが見えることに対して、一般市民からも多くの苦情が出され、地域の新聞等でも大きく取り上げることとなった。この間、塩尻星の会を中心として、真っ先にこの問題について声を上げるとともに、市民への観望会と勉強会を開くなど、地域での光害防止についての機運を高めてきた。さらに、インターネットでの意見聴取を実施し、県へ要望書を提出した。その結果、3 月の県議会において条例改正を示唆する知事答弁が行われることとなった。

「長野県は宇宙県」では、この後も塩尻星の会とともに、この機会を逃さず、これまでの星空保護に関する活動を継続しつつ、市民や行政に向けての星空保護における啓蒙活動を積極的に行うことにした。具体的には、3 月に改訂された光害対策ガイドラインと国際ダークスカイ協会にて認定している「星空保護区」の把握と今後の方向性を決めるための勉強会を 6 月にメンバー内で実施した。そして、7 月には一般市民を対象に、木曾町にて光害防止と「星空保護区」に関する公開ミーティングと講演会を予定している。これらは、県の光害防止に係る条例改正に向けた 7 月のパブリックコメント、9 月議会、10 月に予定された公布に対する活動となる。本発表では、これらの活動状況とともに、今後に向けた展開について報告する。